

「比較的大きな転移性脳腫瘍に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)による5分割照射の治療成績に関する後ろ向き観察研究」に関する「お知らせ」と「お願い」

現在、当院脳神経外科において、「比較的大きな転移性脳腫瘍に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)による5分割照射の治療成績に関する後ろ向き観察研究」を実施しております。

皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

【研究課題名】

比較的大きな転移性脳腫瘍に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)による5分割照射の治療成績に関する後ろ向き観察研究

【研究の対象】

当院で比較的大きな転移性脳腫瘍に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)による5分割照射を行った患者さん

【研究の意義・目的】

比較的大きな転移性脳腫瘍(腫瘍最大径 3cm 以上あるいは腫瘍体積 10cm³ 以上)に対する治療として侵襲的な全身麻酔下での外科的摘出術を回避し、より低侵襲な定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)を用いた2-3回での連日の分割照射あるいは数週間隔の2-3回での段階的照射などの寡分割照射が全国の多くのガンマナイフ保有施設で行われ良好な治療成績が数多く報告されています。一方で寡分割照射における腫瘍の局所制御(放射線障害あるいは腫瘍再発に伴う腫瘍増大の制御)に関しては腫瘍体積が有意な予後規定因子とされ、特に腫瘍体積 30cm³ 以上の病変に対しては有意にその制御が不良との報告が散見されます。この状況を改善するため当院ではガンマナイフを用いた5分割照射を2010年以降積極的に施行してきました。その背景としては寡分割照射において照射回数(治療回数)を増やすことで照射1回の処方線量を減じ、これにより腫瘍周囲の正常脳組織への低線量被曝体積を減少させ放射線障害を抑制することで腫瘍周囲浮腫を防止する一方で、腫瘍辺縁および内部に対しては総処方線量を増加させることにより腫瘍再発を防止し、最終的に放射線障害などの有害事象を低減させ腫瘍の局所制御を向上させることが目的となります。

今回は当院で治療を行った患者さんの治療成績を後ろ向き観察研究として解析しその治療効果を検証します。具体的には過去のカルテからデータを収集し、治療後の転移性脳腫瘍の腫瘍制御率、放射線障害に伴う腫瘍周囲浮腫の制御率、生存期間の解析および、それぞれに関与する因子の解析を行います。

この研究を通じて比較的大きな転移性脳腫瘍に対する定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)を用いた5分割照射のさらなる治療効果の向上が期待され、その結果を医学界全体に発信出来る可能性があるものと考えます。

【研究方法】

この研究は当院で行った定位的放射線治療(ガンマナイフ治療)の治療成績に関する後ろ向き観察研究ですので、患者さんの治療に影響を及ぼすことはありません。治療のデータおよび治療前後の臨床および画像所見の経過を臨床データとして使用します。これらの情報は個人が特定出来ないように匿名で行います。またその情報は当院で厳重に管理され外部に出されることはありません。

この研究で解析された結果は、学会などでの発表および論文に使用させていただく場合もあります。

この研究に関しましてさらに説明をご希望される方、またこの研究へのデータの利用を拒否される方は下記問い合わせまでご連絡下さい。

【連絡先】

本研究に関してご質問等がございましたら、下記の連絡先までご連絡下さい。

〒222-0036

神奈川県横浜市港北区小机町 3211

横浜労災病院 脳神経外科

周藤 高

松永 成生

電話番号:045-474-8111(代表)